



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

クウェイト：サバーハ首長のイラン訪問

6月1日から2日、クウェイトのサバーハ首長がイランを訪問した。過去には1997年にテヘランで開催されたイスラーム会議機構（現イスラーム協力機構：OIC）のサミットにジャービル首長（当時）が出席するなどの例があるものの、クウェイト首長によるイラン訪問は極めて稀なことである。サバーハ現首長（2006年就任）によるイラン訪問は初めてとなる。

イランを訪問したサバーハ首長は、ハーメネー最高指導者、ロウハーニー大統領らと会談した。ロウハーニー大統領は「クウェイト首長によるテヘランへの今次訪問は、双方の関係に肯定的な影響を与えるターニング・ポイントとして見なされるであろう」と述べ、サバーハ首長は「クウェイトはイランと経済、文化、政治協力を発展させる確固たる決意がある」と述べた。また、サバーハ首長はロウハーニー大統領をクウェイトに招待した。ロウハーニー大統領は招待を歓迎するとともに、日程については外交的チャンネルを通じて調整すると述べた。

サバーハ首長には、サバーハ・ハーリド第一副首相兼外相、アブドゥルムフシム・ムドゥイジュ副首相兼商工相、アナス・サーレハ財相、アリー・ウマイル石油相らが同行し、同首長滞在中に、航空輸送、関税、スポーツ、観光、環境、安全保障分野に関する6つのMOUがそれぞれ締結された。また、今回は合意には至らなかったものの、アリー・ウマイル石油相は、クウェイトとイランは石油の輸出大国であることから、「専門技術の交換や、石油の抽出、マーケティング、精製の分野で協調することができる」と述べた他、イラン産ガスのクウェイトへの輸出についても協議された。

ロウハーニー政権が発足した直後の2013年8月にはオマーンのカーブース国王がイランを訪問しており、今回のサバーハ首長の訪問はGCC諸国の首脳としては2番目のイラン訪問となる。ロウハーニー大統領はGCC諸国との関係改善を標榜しており、今回のクウェイト首長来訪が象徴しているように、その政策は着実な成果を挙げているといえよう。6月2日にリヤードで開催されたGCC外相会合においてサバーハ・ハーリド第一副首相兼外相は、「アラブ湾岸諸国とイランは地域の安定のため、双方が関心を抱くあらゆる問題について共同して取り組むべきである」と述べており、今後クウェイトがサウジアラビアとイランとの間で仲介役として働きかけをしていく可能性が高い。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799